



通信

HP 学校だより
R7.10.29
NO.24
文責 伊藤美佳



学芸会の練習 そして チャレンジタイム始まる

すもう大会が終わると、子どもたちは次の行事に向けて動き始めます。それは、「学芸会」です。ただし、今年度は「マラソン大会」を11月27日（木）に予定しているので、学芸会の練習とともに、チャレンジタイムもスタートしています。二刀流のようですが、どちらも子どもたちが成長するにはとても大切な時間だと考えています。

学芸会では、自分の役が決まると台詞の言い方や動きなどを子どもたちなりに考えます。自分ではない人（動物や想像の生き物の場合もあり）の性質や気持ちを考えるということは、大きな学びだと考えます。また、自分以外の生き方を知ることは、子どもたちの人生に役立つことでしょうか。もちろん、音響、照明、幕、大道具など、裏方と呼ばれる仕事があって1つの劇が成り立っていることを知る機会でもあります。見えない所の仕事がとても大切なのだということを学ぶことも大きな意義があると思っています。

チャレンジタイムは、5分間を自分のペースで走ります。自分のペースを見つけるために走っています。人と競争だと思っている子が多いと思いますが、チャレンジタイムやマラソン大会は、自分との闘いです。苦しくて歩きたくなった時、誰かに抜かれてしまった時、「自分なら最後まで走ることができる」と自分を奮い立たせることができるのは、自分です。チャレンジタイムを通して、豊坂っ子一人一人が、今の自分を超えて成長した自分に会えることを期待します。

秋の風物詩 Part4

10月28日（火）は、先日刈り取って、稲架（はぎ）にかけ、乾かした稲の脱穀と粃摺り（もみすり）でした。豊坂小学校では、脱穀も粃摺りも昔ながらの方法で行います。脱穀は、束になった稲を、機械にかけて藁と粃に分けます。脱穀機は機械と足ふみ脱穀機、千歯扱き（せんばこき）の三種類を使います。初めて使うものばかりですが、昔の人たちの大変さを実感できる貴重な体験です。今の農業が、昔のやり方に戻ることにはないでしょうが、大変な思いをしていたからこそ、より楽に、より早くという考えから便利な機械が創造されているはず。子どもたちが農業体験を通して「人間の知恵」を学ぶ機会となることを願っています。

今年も暑い夏を乗り越えたうるち米が10.7kg、もち米が9.65kg収穫できました。今までの5年生にしてもらったことを、どうやって恩送りしていくか考えているそうです。

「自分たちは、こんなことをして全校のみんなやお米の先生方を笑顔にしたい」と考え、実行することで、米を作っただけでない学びを得られることを期待しています。

